

夢大使紹介⑮



松野 秀三氏

楽天野球団
コーポレート本部
地域連携部 部長

南三陸町との関わり

普段は、楽天野球団にて地域連携を通じ、東北各地の皆さまとの繋がりを創っていく仕事をさせていただいております。

南三陸町の皆さまも、「楽天イーグルス平成の森球場」や「さんさん商店街」だけでなく、様々な取り組みを通じてお伺いする機会を頂き、本当に有難く感じております。

大使としての活動内容

南三陸町の魅力創出・発信に寄与していきたいと考えています。「楽天イーグルスを南三陸町の資源として活用していきたい」など、内需外需問わず、楽天イーグルスの保有するコンテンツを使用し、地域還元や交流人口拡大、シティープロモーションなど、皆さまと意見を合わせながら一つ一つかたちにできたら嬉しいです。

南三陸町への想い

東北の皆さま、南三陸町の皆さまへ、これまでの感謝の想いを伝えつつ、楽天イーグルスが「おらがチーム」だと言っていたように、皆さまとの繋がりを大切にしながら、新しい魅力・活力を創っていききたいと思います。

楽天モバイルパーク宮城でも皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

南三陸町との関わり

南三陸町志津川（荒砥）生まれ、大学に進学するまで志津川の町で育ちました。大学院在学中には、旧志津川高校にお伺いし、未熟ながら自身の経験を基に受験勉強や大学での生活、学業についてお話をさせていただきました。

大使としての活動内容

「経験の伝承 ～南三陸町出身者として～」

入社から現在に至るまで、研究所、大学、海外での業務を通じて、様々な経験をしてきました。私自身、まだまだ未熟な身ですが、これまでの経験を通して学んだこと、悩んだこと、努力したことなどをこれからの南三陸町を背負って立つ若手の皆さまにお伝えし、今後のご活躍の一助となればと思っております。

「南三陸町のPR活動」

職業柄、国籍問わず多くの方と接する機会があります。一人でも多くの人に南三陸町へ足を運んでいただき、南三陸町を体感していただけるよう、PR活動に努めて参ります！

南三陸町への想い

南三陸町の魅力は、実際に『来て・見て・感じて』からこそ実感できるものだと思っておりますので、多くの方に来町頂けるようPR活動、頑張らせて頂きます!!

この度、南三陸さんさん夢大使を委嘱いただき、大変光栄に思っております。生まれ故郷、南三陸町の活性化に微力ながら貢献していきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

夢大使紹介⑯



高橋 遼平氏

出光興産株式会社
潤滑油二部
インダストリー技術課
チーフマネージャー

南三陸町との関わり

私は、2011年3月11日の東日本大震災直後から日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部の広報官兼コーディネーターとして、気仙沼から山元町まで沿岸部での支援活動をしていました。南三陸町では、子どもたちが学校へ戻れるように文具などの支援、心のケア支援、乳幼児の検診支援などをしており、そのような中で、町で唯一の幼稚園であるあさひ幼稚園が津波で流失したということで、幼稚園再建プロジェクトがスタートしました。

町長のリーダーシップのもと、世界的な建築家である手塚貴晴建築研究所による設計、サッカー日本代表長谷部誠さんがご著書「心を整える」の印税を寄付して下さる、などのコーディネートをしました。

大使としての活動内容

震災後、毎年成人式のゲストスピーカーのコーディネートをしたりと、東京や関西から南三陸町に人を連れていくツアーを開催するボランティアを続けています。

南三陸町への想い

町長はじめ、幼稚園の先生方や商店街の方など、大変な状況の中でも明るく前を向いて頑張っていらっしゃる様子や、人を連れて行った時にもオープンに迎えてくださることで本当にたくさんのファンができた町だと思います。それは他のどこよりも際立っていて、学ぶことがとても大きいと、この10年間ずっと南三陸が好きで、これからもずっと通い続けたいと思っています。

夢大使紹介⑬



宮原 育子氏

宮城学院女子大学
現代ビジネス学部 教授

南三陸町との関わり

町がまだ合併する前の平成14年10月に志津川町から、町の自然環境を活用した観光振興に関する調査研究を受託したことがきっかけです。当時は、宮城大学事業構想学部の教員として、ゼミの学生とともに、志津川町内各所で合計6回のフィールドワークを行いました。その結果は、「海幸・山幸志津川シーズン」と題し、大学祭での展示と報告書の作成を行いました。学生たちの現地調査には、当時の佐藤仁町長をはじめ、商工観光課や観光協会の皆さん、地域住民の方々に全面的なご協力をいただき、忘れられない研究活動となりました。

大使としての活動内容

南三陸町になってからも学生たちと何度も観光交流の研究活動をさせていただきました。震災後は、復興に関わる委員会のメンバーとして、住民の皆さんのまちづくりへの強い意思を直に感じることができました。

南三陸町への想い

震災後の南三陸町は、国内外の企業や組織、人々に支えられて、どんどん進化してきました。人に「人徳」というものがありますが、南三陸町は、町民の皆さんの心映えがまさに「町徳」をつくっていると思います。これからも南三陸町がユニークで元気な町として前進されることを私も微力ですが応援していきます。よろしくお願いします。

夢大使紹介⑭



若林 直子氏

PRコンサルタント、ソーシャルピーアールパートナーズ株式会社代表取締役
(元日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部広報官兼コーディネーター)

南三陸町との関わり

私は、2011年3月11日の東日本大震災直後から日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部の広報官兼コーディネーターとして、気仙沼から山元町まで沿岸部での支援活動をしていました。南三陸町では、子どもたちが学校へ戻れるように文具などの支援、心のケア支援、乳幼児の検診支援などをしており、そのような中で、町で唯一の幼稚園であるあさひ幼稚園が津波で流失したということで、幼稚園再建プロジェクトがスタートしました。

町長のリーダーシップのもと、世界的な建築家である手塚貴晴建築研究所による設計、サッカー日本代表長谷部誠さんがご著書「心を整える」の印税を寄付して下さる、などのコーディネートをしました。

大使としての活動内容

震災後、毎年成人式のゲストスピーカーのコーディネートをしたりと、東京や関西から南三陸町に人を連れていくツアーを開催するボランティアを続けています。

南三陸町への想い

町長はじめ、幼稚園の先生方や商店街の方など、大変な状況の中でも明るく前を向いて頑張っていらっしゃる様子や、人を連れて行った時にもオープンに迎えてくださることで本当にたくさんのファンができた町だと思います。それは他のどこよりも際立っていて、学ぶことがとても大きいと、この10年間ずっと南三陸が好きで、これからもずっと通い続けたいと思っています。